

**平成29年度**  
**観光統計調査報告書**  
**(平成28年1月～12月)**

**一迫花山商工会**

# 観光統計報告書について

## 1. 調査分析資料

宮城県 観光統計概要 平成28年（1月～12月）

## 2. 資料について

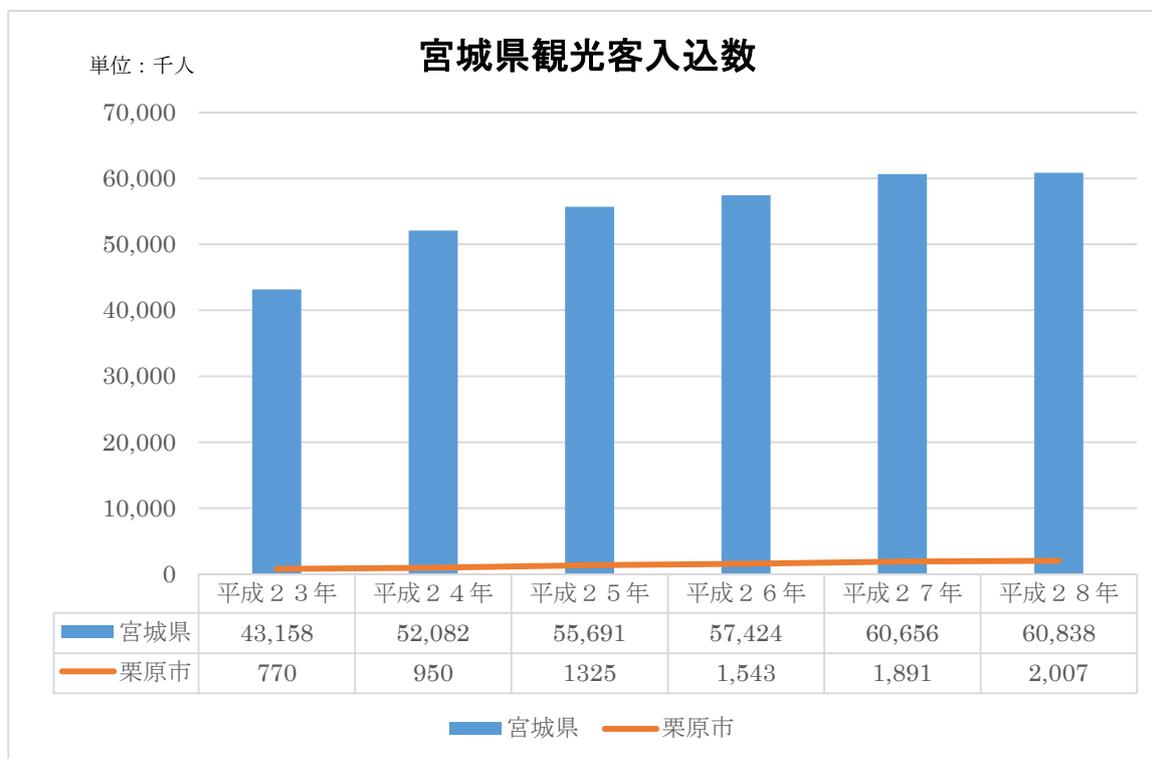
（1）県内の圏域は仙南・仙台・大崎・栗原・登米・石巻・気仙沼の7地区です。

（2）観光客入込数、宿泊観光客数は延べ人数です。

（1人が観光地点を2箇所訪れた場合や、2泊した場合は2人となります）

## (1) 観光客入込数

### ①宮城県観光客入込数



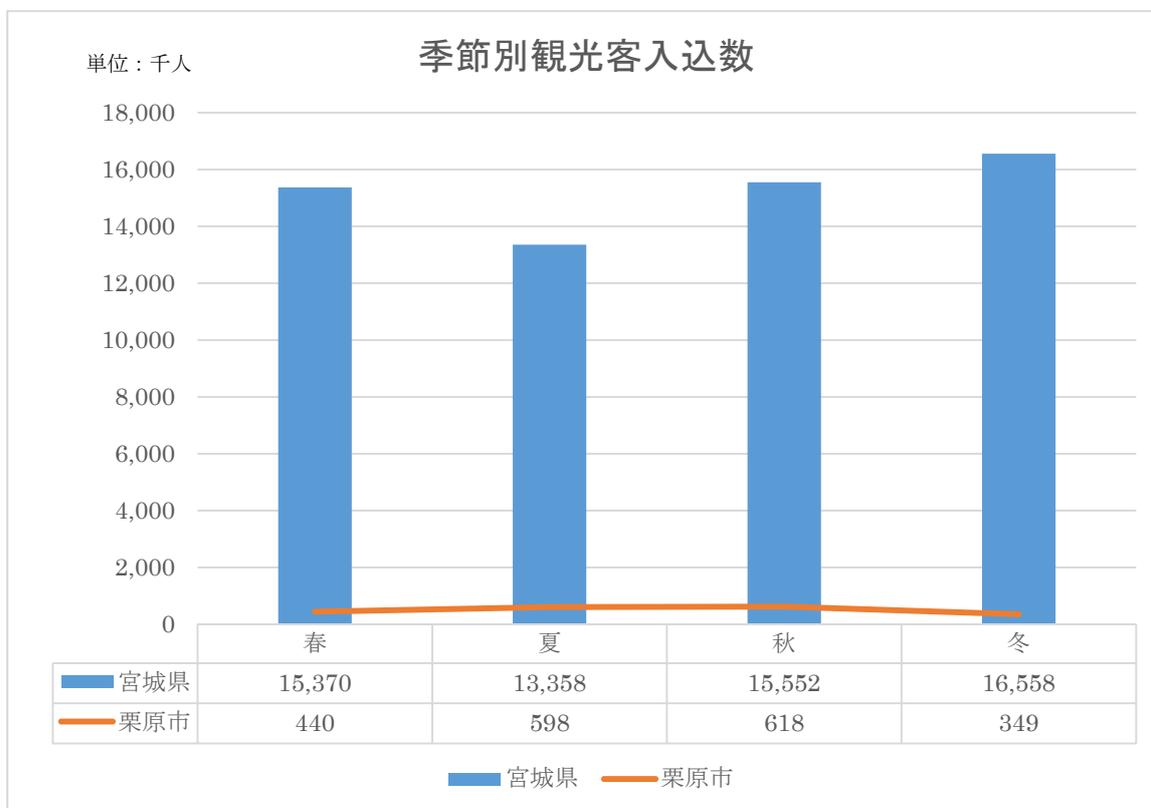
宮城県全体の観光客入込数は年々増加傾向で推移しており、平成22年に61,286千人を記録したが、平成23年に発生した東日本大震災の影響で平成23年の観光客入込数は大幅に落ち込む結果となった。しかし翌24年からは着実に増加していき、平成27年及び平成28年の観光客入込数は平成22年と同水準となっている。

栗原市の観光客入込数は平成19年に1,910千人であったが、平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震により大幅に落ち込んだ。しかし、栗駒山麓ジオパークが認定されたほか、栗原市の観光客入込数増加戦略等により、入込数は平成27年より116千人増加の2,007千人となり、市の観光客入込数目標の2,000千人を越え、震災前の水準まで回復している。

宮城県の観光客入込数増加の要因として、観光集客施設の通年営業や海水浴場の再開、各種観光施策による誘客効果が挙げられている。

また、栗原市ではTVCMを始めとして、地区内外に向けた様々なPRの効果から増加傾向であると思われる。

## ②季節別観光客入込数

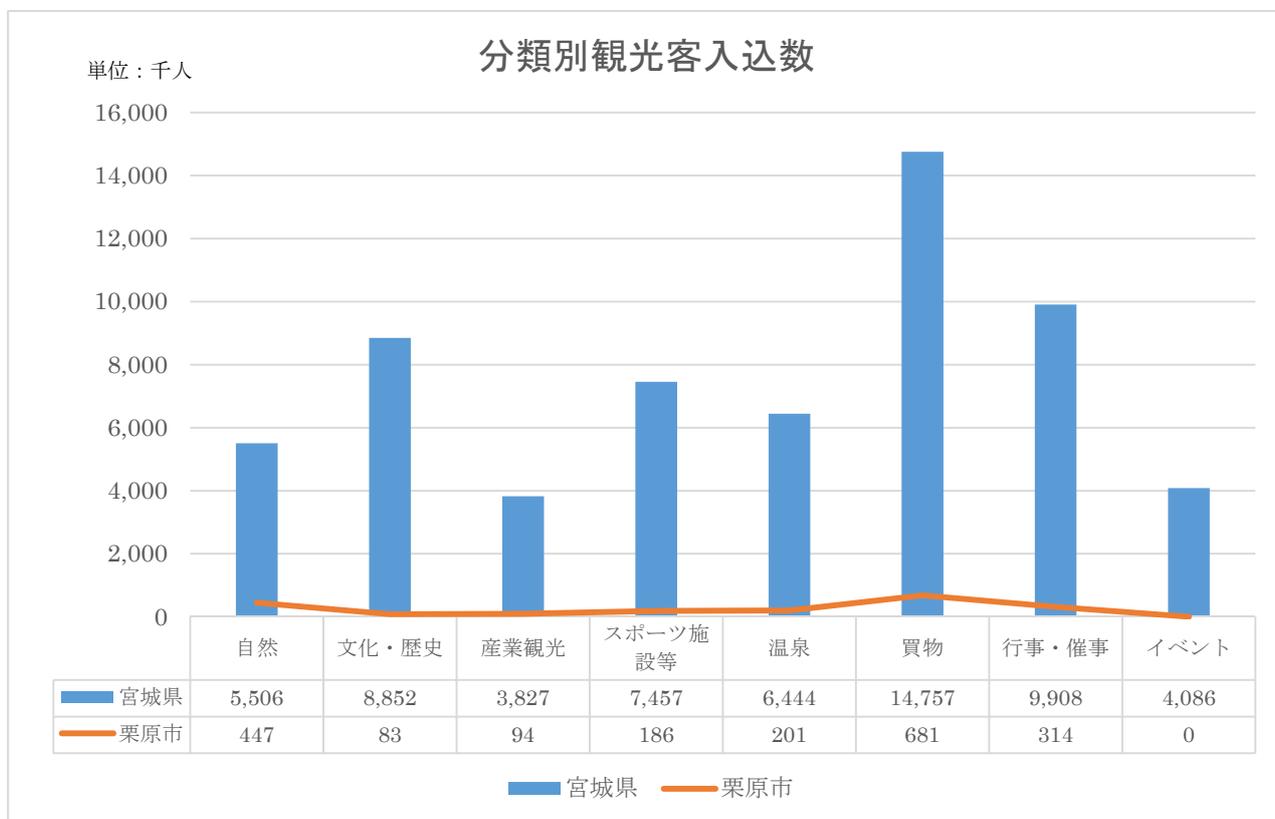


宮城県の季節別観光客入込数は前年と比べ、春季、夏季で増加したものの、秋季及び冬季で減少となった。平成27年と比べてみると特に秋季(△775千人)が大きく減少しており、大型コンサートの反動減等の理由が考えられる。

栗原市については夏季と秋季の入込数が前年と比べ増加している。また例年同様であるが雪深く、観光資源が乏しい他、国道398号線の冬季閉鎖などの影響により、冬季の観光客入込数は他の季節と比べ伸び悩んでいる。

年間を割合で見ると春は21.9%、夏は29.8%、秋は30.8%、冬は17.4%となっている。

### ③分類別観光客入込数



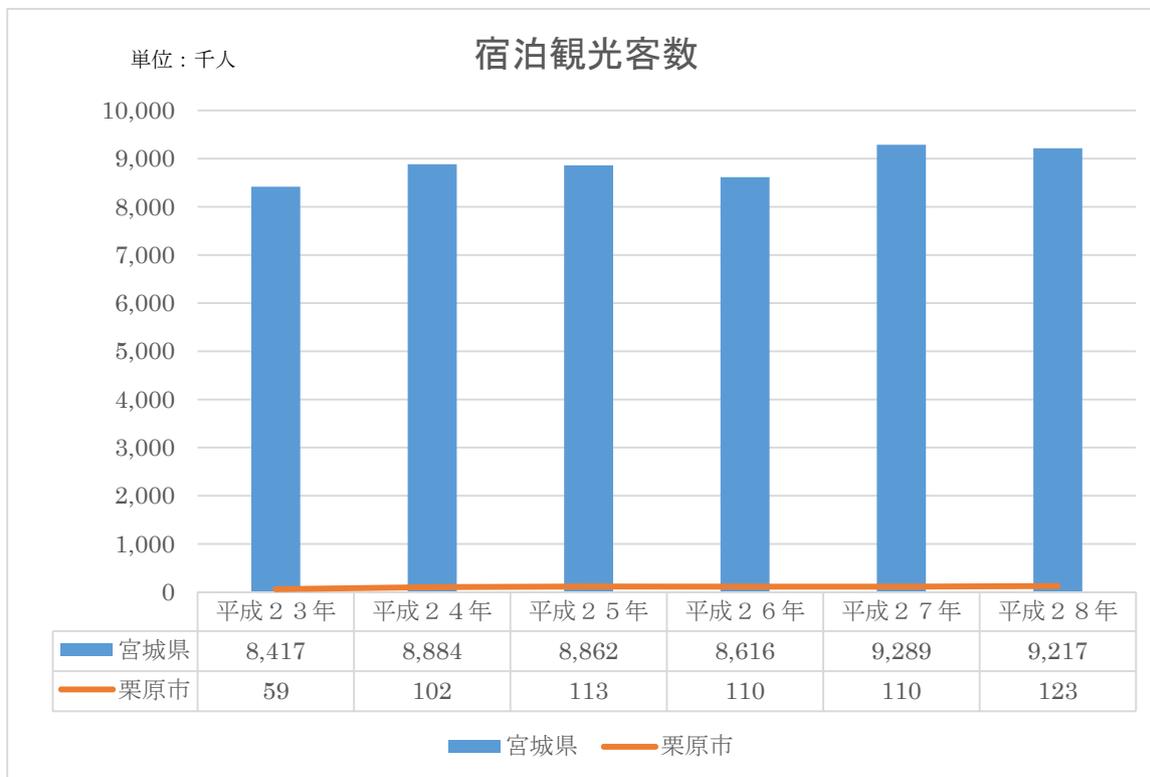
宮城県の分類別観光客入込数は、例年通り「買物」が一番多いが、前年より108千人減の14,757千人の入込数であった。

次いで「行事・催事」が9,908千人（308千人減）、「文化・歴史」は前年に引き続き増加し8,852人（112千人増）となった。

前年と比べ「買物」、「行事・催事」、「自然」、「スポーツ施設等」を除き、観光客入込数が増加した。

栗原市の分類別観光客入込数は宮城県と同様に「買物」が一番多く23千人増の681千人で、次いで「自然」が89千人増の447千人、「行事・催事」は35千人減の314千人となっており、例年に続き上位3分類で栗原市の観光客入込数の72%を占めている。また、「産業観光」、「行事・催事」を除き、前年より観光客入込数が増加となった。

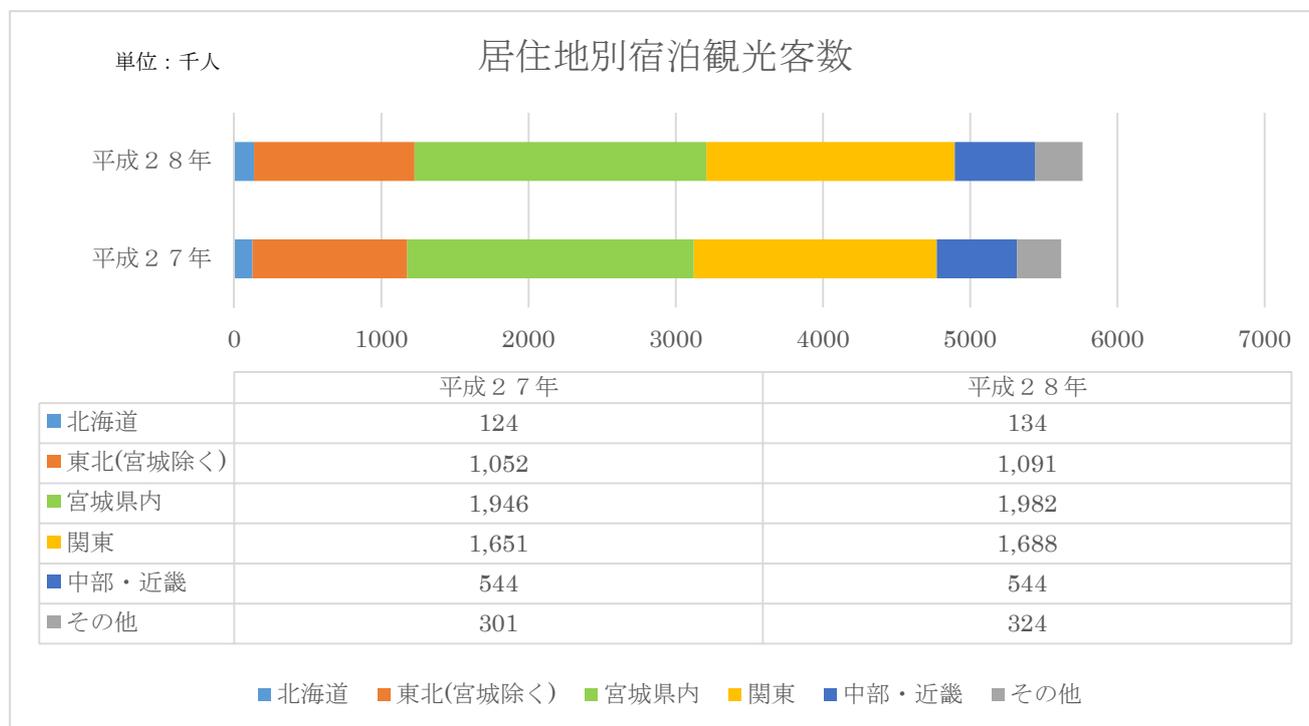
## ④宿泊観光客数



宮城県の宿泊観光客数は東日本大震災の復興需要もあり増加傾向が続いていたが、復興需要が落ち着いてきた平成25年から減少傾向へと転じていたが、平成27年は大型コンサートや国連防災世界会議、「観光王国みやぎ旅行割引」等の影響から大きく増加となった。その反動減が見込まれた平成28年であったが、72千人減の9,217千人で、平成27年と同水準となっている。

栗原市は栗駒山麓ジオパークの認定、風評被害の払拭、各種PRの効果により前年に比べ12千人増加の123千人となり前年比11.3%の増加と大きく伸びている。

## ⑤居住地別宿泊観光客数

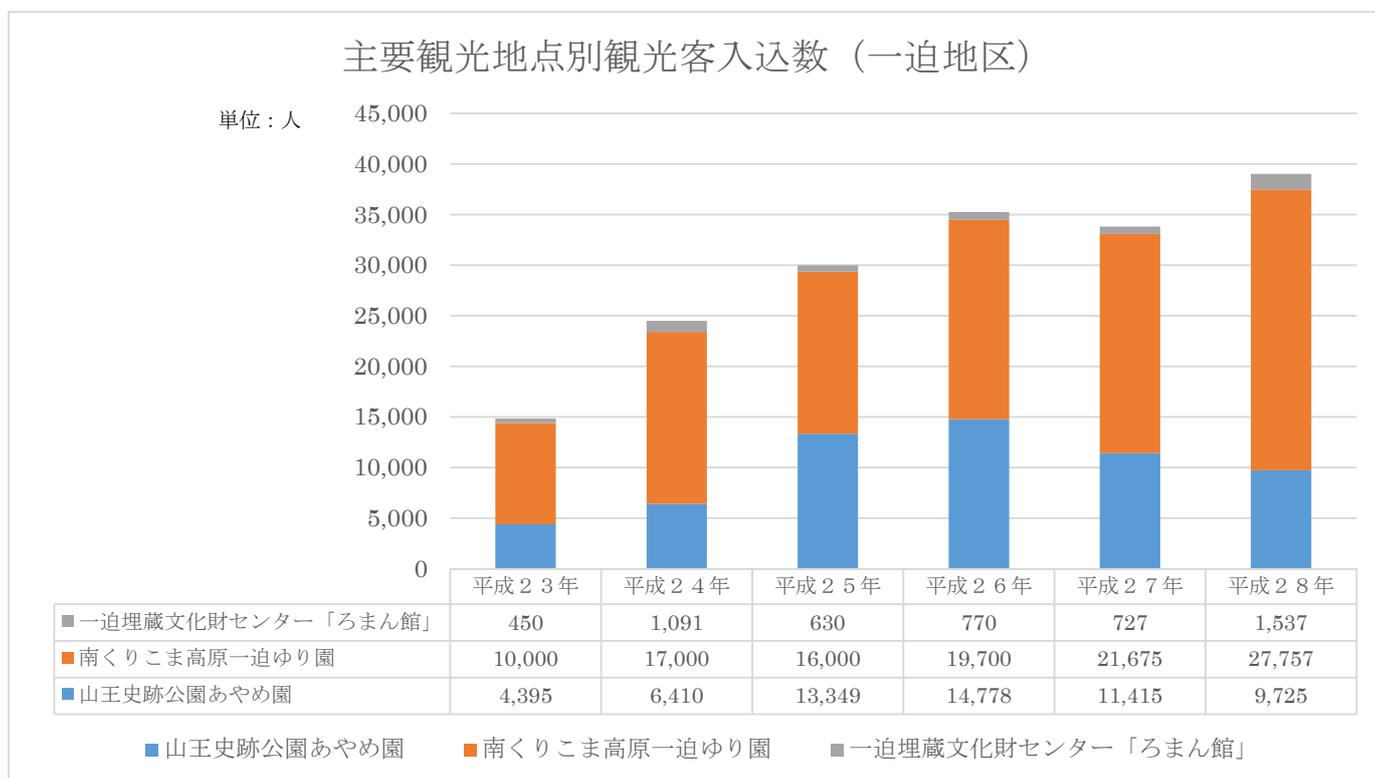


居住地別宿泊観光客数は増加傾向である。居住地別に見ると「中部・近畿」が前年と変わらない以外、その他全ての地域で観光客が増加している。

増加数で見ると「東北」が39千人増、次いで「関東」で37千人増となっており、「東北」、「宮城県内」、「関東」で宿泊観光客数の多くを占めている。

## ⑥主要観光地点別観光客入込数

### 【一迫地区】

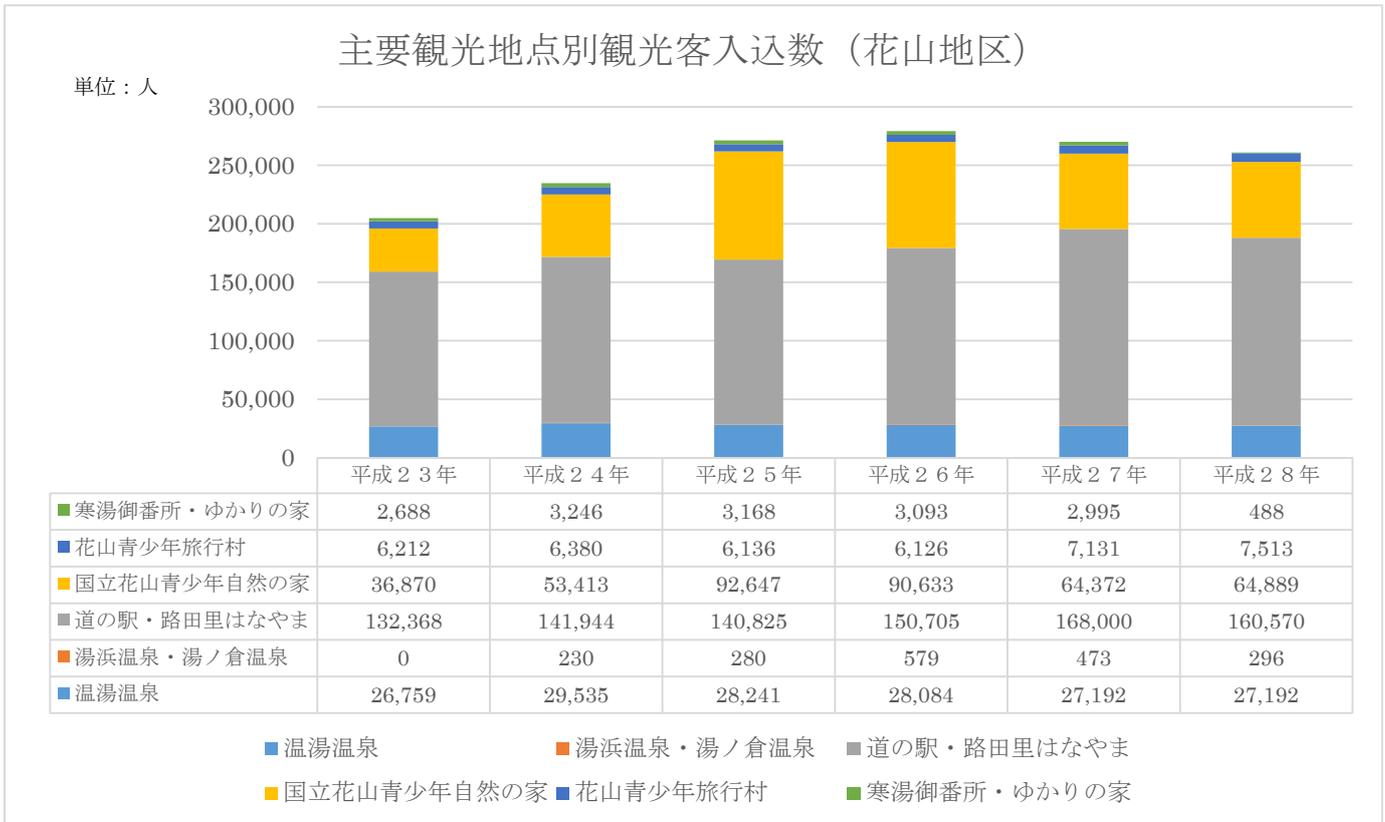


一迫地区で統計を取っている平成28年の主要観光地点別観光客入込数は南くりこま高原一迫ゆり園が6,082人の増と大きく増加し27,757人、一迫埋蔵文化財センター「ろまん館」も前年比211%（+810人）の1,537人と大きく増加した。

山王史跡公園あやめ園は1,690人減の9,725人で前年に続き減少となっている。

平成28年の一迫地区の主要観光地点別観光客入込数は全体で39,019人（+5,202人）となり、栗原市の観光PRの効果が現れている結果となった。

## 【花山地区】



※湯浜温泉・湯ノ倉温泉は震災の被害により平成22年・平成23年は休業。

花山地区の観光客入込数は道の駅・路田里はなやまが前年比 7,430 人減の 160,570 人となった。しかし昨年同様に花山地区の主要観光地点別観光客入込数の中で 60%以上を占め、最多となっている。

次いで 517 人増の 64,889 人の入込数があった国立花山青少年自然の家、増減無し of 27,192 人で温湯温泉となっている。

今年度は寒湯御番所・ゆかりの家が△83.7%の 488 人、湯浜温泉・湯ノ倉温泉が△37.4%の 296 人と大きく減少している。

花山地区で平成27年に入込数が増加した主要観光地は、花山青少年旅行村が2期連続の増加(+382人)、上記国立花山青少年自然の家の2箇所であり、全体の観光客入込数は2期連続減少の 260,948 人(△9,215人)であった。

## 【栗原市全域】

### ①平成28年度栗原市全域主要観光地点別観光客入込数（上位5地点）

	観光地点	H28年入込数	対前年増減数
1	栗駒山・イワカガミ平	168,660人	+42,379人
2	道の駅・路田里はなやま	160,570人	△7,430人
3	金成温泉金成延年閣	114,918人	△2,916人
4	栗原市細倉マインパーク	78,309人	+37,501人
5	国立花山青少年自然の家	64,889人	+517人

### ②平成28年の栗原市の主な出来事

	月 日	主な出来事
1	3月31日	栗原市細倉鉱山資料館閉館
2	5月 3日	菅原文太さんを故郷で偲ぶ会
3	7月 2日	栗原市細倉マインパークリニューアルオープン
4	11月 3日	南こうせつコンサートツアー2016～緑の旅人～in 栗原
5	11月13日	第2回栗原ハーフマラソン大会

栗原市の主要観光地点別観光客入込数は前年より41,779人増の794,201人であり、内一迫地区は4.9%（+0.5%）、花山地区は32.9%（△3%）を占めている。

平成28年は栗原市細倉マインパークが6月にリニューアルオープンし、前年比37,501人増の78,309人、また、栗駒山・イワカガミ平が42,379人増の168,660人と大きく増加している。

平成28年の栗原市全体の観光客入込数は115千人増加し、2,007千人となり、栗駒山麓ジオパークの認定や栗原市の観光PRの効果などから観光客入込数は増加が続いている。

しかし、一迫地区や花山地区においては観光客入込数の伸びは大きくなく、観光客の取り込みに向けて更なる検討・取組が必要である。